



全日畜だより

[こちら編集部] (03)-3583-8034

東京都港区麻布台2-2-1麻布台ビル

発行日 2020年9月18日

発行NO 2020 - 36号

JRA事業 雇用促進調査事業

全日畜ワークショップ「南東北・北関東会場」を開催

最終年度を迎えたJRA事業「畜産経営雇用促進調査事業」は、令和2年度のワークショップ「南東北・北関東会場」の開催から、具体的な調査事業をスタートさせました。集会は、現下のコロナ禍の状況の下で感染拡大防止に配慮して、開催方法について、従前のスタイルを弾力的に工夫して実施することとし、福島県で実施する県内生産者との集合型集会（8月25日実施）と、栃木県の生産者の農場訪問型調査（9月15日実施）で実施しました。



福島会場から

会場入室者は、検温、消毒、マスク着用で社会的距離を保って。

福島会場は、5名の養鶏経営者を招いて、市内のホテルで開催。

ワークショップは、約2時間半にわたって全日畜専門員（調査担当）と、労働力確保の現状や課題等について意見交換を行いました。

[主な意見等]

- ・募集はハローワークが主体だが知人の紹介が定着の確立が高い
- ・働き方改革の影響で、さらに雇用を増やす必要が生じている
- ・農場がある程度優良企業の水準にならないと雇用の面では不利
- ・養鶏は他の畜種より外国人労働力の活用が多い（50%以上）
- ・技能実習生、特定技能者、エンジニアの3職種活用の事例もある
- ・複数国から受け入れて互いに競争させている事例もある 等々



栃木会場から

栃木会場は、2カ所で3名の経営者の農場を訪問して意見交換。

[主な意見等]

- ・採用時の面談は重要、特に前職の離職事情等は丁寧に聞く
- ・以前、農福連携を実施してみたが、安全面から大家畜は難しい
- ・外国人受け入れの際に入国管理機関等に畜産業の実態が理解されず、不利な扱いを受けた 等



| | |
|---|--|
|  | (有) 酒井養鶏場 代表取締役 酒井 裕之 様 (採卵鶏の経営者) [南東北会場] |
|  | 伊達物産(株) 代表取締役 社長 清水 建志 様 (肉用鶏の経営者) [南東北会場] |
|  | (有) 中山養鶏場 代表取締役 中山 宗隆 様 (採卵鶏の経営者) [南東北会場] |
|  | (株) 伊奈養鶏場 代表取締役 齋藤 実 様 (採卵鶏の経営者) [南東北会場] |
|  | (株) アグリテクノ 取締役 副社長 三品 重利 様 (採卵鶏の経営者) [南東北会場] |
|  | 那須野ヶ原牧場(株) 代表取締役 松本 光治 様 (肉用牛の経営者) [農場訪問] |
|  | (有) グリーンハートティーアンドケイ 代表取締役社長 津久井 宏哉 様 (酪農等の経営者) [農場訪問] |
|  | (株) 前田牧場 常務取締役 齋藤 一久 様 (肉用牛肥育の経営者) [農場訪問] |

(文中での団体の略称標記について)

- ・一般社団法人 全日本畜産経営者協会 (全日畜)
- ・協同組合 日本飼料工業会 (工業会)

・一般社団法人 全日本配合飼料価格畜産安定基金 (全日基)

・一般社団法人 都道府県配合飼料価格安定基金協会 (〇〇県基金協会)

JRA事業 自然災害に強い畜産経営の実現調査事業

全日畜ワークショップ「千葉会場」を開催



(集会は事務局からの感染防止対策のお願いからスタート)

- ◎ 1年前に、経験したことがない大型台風15号に襲われ、辛い体験が記憶に新しい畜産経営者が集う千葉会場は、今年も9号10号の大型台風のニュースが続く中で、緊張気味に開会。
- ◎ 開会の挨拶に立った全日畜の長嶋理事は、私も昨年は大きな被害を被ったひとり、現場にいない人では分からないことが沢山起こっていた、と1年前を振り返った。
- ◎ 事例発表者からは、二週間続いた停電の悲惨さの報告、大量に死亡した家畜の惨状の報告、出荷できずに廃棄してしまった生乳の報告、日記のように書き留め撮影した写真を持参しての生々しい惨事の報告、恐怖の最大瞬間風速57.5m/sの体験報告、などが続いた。
- ◎ 会場全体で実施された意見交換では、発電機は利用方法等も理解しておく必要がある。災害に強い畜産経営とは災害に備えることで経営者の感覚が問われる。被災農場への迅速な飼料メーカーの支援は頼もしい。再開までの全てを含む保険の加入は重要。災害時には日頃のネットワークが活かされる。災害時は時間との闘いで経験とセンスが問われる。等々。
- ◎ 全日畜では、3時間にわたった全日畜ワークショップ千葉会場の様子について、今後「速報レポート」を作成してHPで公開することとしています。

全日畜は今年度から2年間実施する「自然災害に強い畜産経営の実現調査事業」を、千葉会場でのワークショップ開催から本格的にスタートしました。

コロナ禍の下での集会開催。事前に少数定員を定めて参加者は事前の登録制。会議の冒頭では入退室の入念な消毒等の注意事項やマスク着用をお願いを徹底して、室内換気に配慮してドアを開いて集会を開催しました。

1 全日畜ワークショップ「千葉会場」の概要紹介

◎ 開催日 令和2年9月4日(金曜日) 13:00 ~ 16:00

◎ 会場 ホテル「ポートプラザちば」 2F「ホール」

2 昨年の「15号房総半島台風」等の教訓や「学習したこと」等を意見交換

| | | |
|---|--|--|
|  | 千葉県の畜産経営者 (有) 高秀牧場 代表取締役 高橋 憲二 様 (酪農経営者からの報告) | ・台風15号で、5日間の停電と水道の断水を経験 ・出荷先の機能不全で辛い生乳廃棄を経験 ・牛舎、堆肥舎、倉庫、屋根等も損壊 ・被災した施設等の復旧体験を報告します |
|  | 千葉県の畜産経営者 北見畜産(有) 代表取締役 北見 則弘 様 (酪農経営者から報告) | ・台風15号で豚舎の屋根が飛び母親35頭が死亡 ・2日間の停電と4日間の道路の遮断を経験 ・復旧作業が重労働で、自身も体調を崩した ・ライフライン確保の大切さをお話しします |
|  | 千葉県の畜産経営者 (有) サンファーム 代表取締役 林 共和 様 (養鶏経営者から報告) | ・台風15号で、3日間の停電を経験 ・発電機がオーバーヒートして鶏3万羽が熟死し、ひよこ300羽が死亡、集卵は人海戦術で対応 ・電力確保の重要性についてお話しします |
|  | 千葉県全日畜 事務局長 瓦井 哲夫 様 (緊急アンケート調査の報告) | ・千葉県に台風15号・19号・21号が襲来 ・搾乳牛、築卵鶏、採卵鶏の死など被害は甚大 ・各配合飼料会社は被災農場への支援を展開 ・被災直後のアンケート調査結果を報告します |
|  | 配合飼料製造会社 中部飼料(株) 鹿嶋工場 営業課長 竹中 一展 様 (飼料メーカーからの報告) | ・営業マンの支援について報告します ・事象は、家畜の斃死、畜舎の倒壊、停電、断水、搾乳不能、集乳不能、集卵不能 等々 ・職員を派遣しての支援は、被災状況確認、被害畜舎の処理、発電機の手配、鶏死体回収等 |
|  | 東金郡農業協同組合 組合員 長嶋 透 様 (出荷先等について報告) | ・甚大な被災の中からお話しします ・生産された生産物が現場で廃棄される辛さ ・生産物が消費者まで届けられないもどかしさ ・流通・可能段階も含めたネットワークの大切さ |
|  | 千葉県 畜産課 生産振興班 班長 丸山 武則 様 (県の行政機関からの報告) | ・行政機関が把握した被害等を報告します ・収集したデータ等をご紹介します ・行政機関の支援のあり方 ・自然災害にどう対応すべきか(私見ですが) |



(文中での団体の略称標記について)

- ・一般社団法人 全日本畜産経営者協会 (全日畜)
- ・協同組合 日本飼料工業会 (工業会)

- ・一般社団法人 全日本配合飼料価格畜産安定基金 (全日基)
- ・一般社団法人 都道府県配合飼料価格安定基金協会 (〇〇県基金協会)

「自然災害に強い畜産経営」に高い関心 (千葉会場での参加者アンケートから)

【アンケート集計から】

- ・調査への関心度：大いに関心がある（79%）、関心がある（21%）
- ・ワークショップは：非常に役に立った（62%）、役に立った（38%）
- ・この調査事業の重要性：とても重要である（92%）、ある程度重要である（8%）

【自由意見等から】

- ・昨年の15号台風はひどかった、生産現場での対策不備がもろに露呈した。個々の農場レベルでの対策が重要
- ・気が動転している時は、難しいものでなく最低限必要なものを決めておく必要がある（マニュアルについて）
- ・今日の集会は、現場でしかわからない、体験しないとわからない話が聞けて大変参考になった。等々

「スマート畜産調査普及事業」がJRAの令和2年度の調査研究発表会に参加

- ◎ 全日畜が平成30年度から2年間実施して、昨年度末に終了したスマート畜産調査普及事業が、JRAが主催する令和2年度の調査研究発表会の講演事業に選定されました。
- ◎ 例年では、10月に都内で開催されていたこの発表会は、今年は、コロナウイルスの拡大防止の観点から、例年とは異なり、WEB（オンデマンド方式）で、JRL（全国競馬・畜産振興機構）のホームページから閲覧する方式で開催されます（10月8日から配信）。
- ◎ 全日畜では、全国の畜産経営者の皆さんからご協力をいただいて実施した①アンケート調査、②シンポジウムの開催、③実証調査の実施、④マニュアルの作成、について発表を行います。

お知らせ

令和2年度JRA畜産振興事業に関する調査研究発表会 —本年度はコロナウイルス対応のためWEBで発表会を開催—

日時：令和2年10月8日（木）13時00分～
全国競馬・畜産振興会のホームページから視聴いただけます（オンデマンド方式）

内容（演題および講師）

- 1 「障がい者や初心者安全に乗れる馬の生産研究」
～人工授精および受精卵移植を利用した馬の多様な利活用～
（障がい者乗用馬ならびに在来馬の生産法確立事業）
国立大学法人 帯広畜産大学
グローバルアグロメディシン研究センター
教授 南保 泰雄
- 2 各国の特色を活かしたスマート畜産先進事例
～ヨーロッパで実用化されているAI、IoT等活用先進の実態～
（AI、IoT等活用畜産先進モデル調査事業）
公益社団法人 畜産技術協会
国立大学法人 鹿児島大学 共同獣医学部 教授 窪田 力（スウェーデン担当）
学校法人 東京理科大学 理工学部 教授 大和田 勇人（ドイツ担当）
国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 畜産研究部門
主任研究員 中久保 亮（デンマーク担当）
- 3 スマート畜産技術の振興に向けて
～スマート畜産調査普及事業の成果を中心として～
（スマート畜産調査普及事業）
一般社団法人 全日本畜産経営者協会
常務理事 山田 哲郎
専門員 神谷 旗雄
- 4 精製タンパク質を活用した子宮機能異常の解消
～乳牛の受胎成績改善への応用～
（乳牛の低受胎対策新規技術開発事業）
国立大学法人 北海道大学 大学院獣医学研究科
教授 片桐 成二
- 5 和牛のプラチナゲノム解析
～最新ゲノム技術の活用に向けた情報基盤整備～
（和牛のゲノム情報強化事業）
国立大学法人 東京大学 大学院新領域創生科学研究科
教授 鈴木 穰

問い合わせ先

公益財団法人 全国競馬・畜産振興会 業務部長 松本、畜産振興課 後藤
TEL：03-5777-0733
E-mail：matsumoto.hiroki@jrljrao.ne.jp、goto.aiko@jrljrao.ne.jp
URL：http://www.jrljrao.ne.jp/

(令和2年度の調査研究発表会のプロフラム)



(前半の発表を担当の山田常務（左）と、後半の発表を担当の神谷専門員（右）)



(文中での団体の略称標記について)

- ・一般社団法人 全日本畜産経営者協会 (全日畜)
- ・一般社団法人 全日本配合飼料価格畜産安定基金 (全日基)
- ・協同組合 日本飼料工業会 (工業会)
- ・一般社団法人 都道府県配合飼料価格安定基金協会 (〇〇県基金協会)